

学校図書館支援センターだより



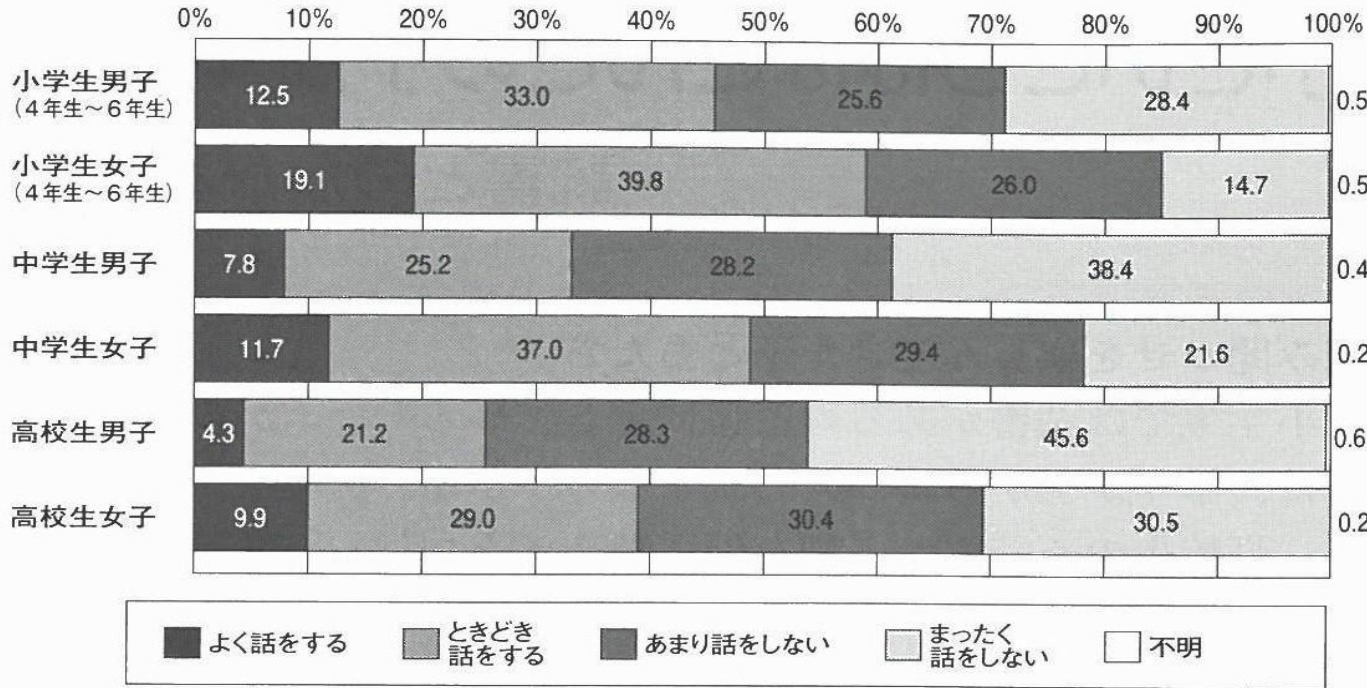
新居浜市教育委員会学校教育課
新居浜市一宮町一丁目5番1号
TEL (0897)65-1301

子どもと本の話をしていきますか？

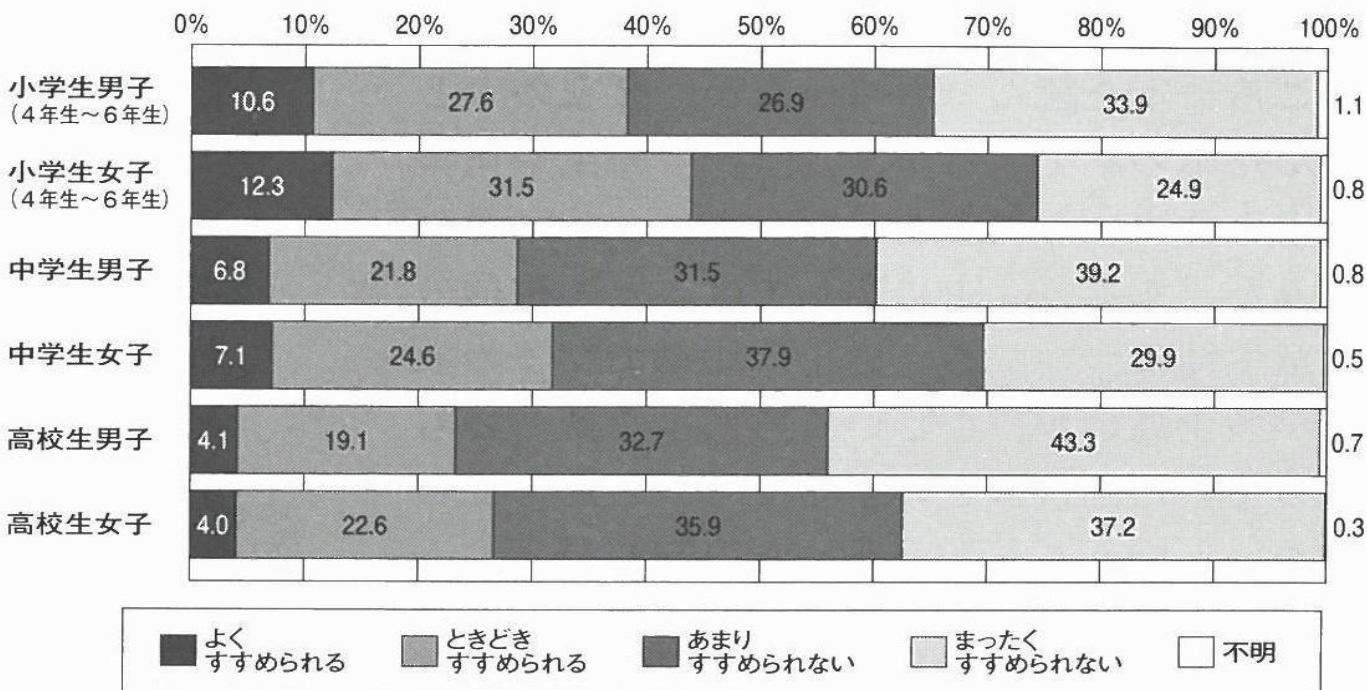
全国学校図書館協議会と毎日新聞が合同で実施した『第65回学校読書調査』で子どもたちの読書体験等を探ったところ、「家の人と読んだ本についてよく話をする子どもほど、本をよく読む傾向にある」ことが分かったそうです。

第65回学校読書調査報告より一部抜粋

調査者：全国学校図書館協議会・毎日新聞社
調査時期：2019年6月

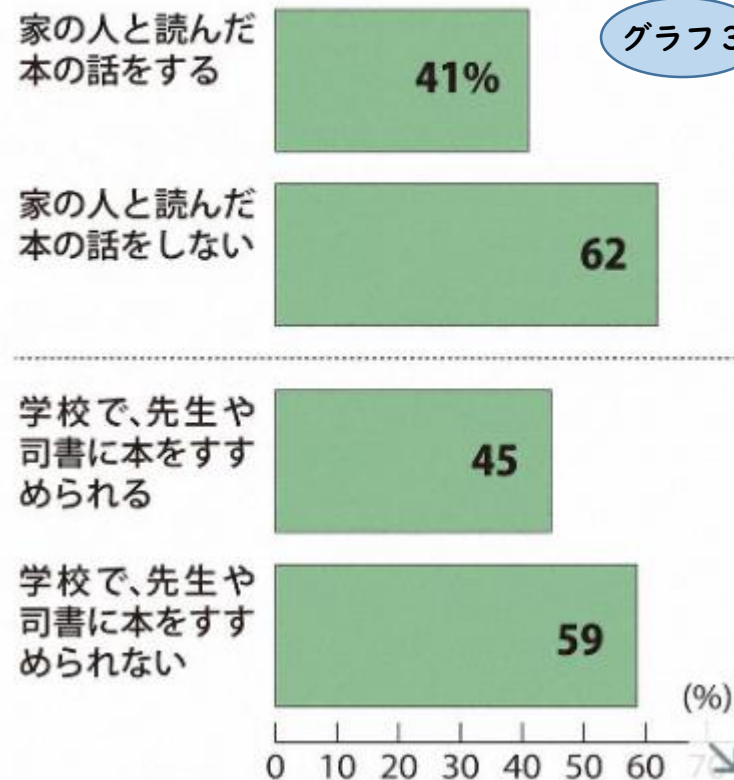


グラフ1 家の人と読んだ本の話をするか



グラフ2 学校で、先生や司書に本をすすめられることがあるか

大人との関わりによる不読率の違い (高校生)



グラフ3

これまでに読んだ本の中で一番好きな本

学年	順位	書名
小学生	1	サバイバルシリーズ
	2	まんがでよくわかるシリーズ・ひみつ文庫
	3	名探偵コナンシリーズ
	4	かいけつゾロリシリーズ
	5	ぼくらシリーズ
中学生	1	ぼくらシリーズ
	2	5分後に意外な結末シリーズ
	2	ハリー・ポッターシリーズ
	4	君の隣をたべたい
	5	空想科学読本シリーズ
高校生	1	君の隣をたべたい
	2	ハリー・ポッターシリーズ
	3	図書館戦争
	4	ぐりとぐらシリーズ
	5	ONE PIECE シリーズ

読み聞かせを楽しんできた子どもたち

「小さいころに、家の人に本を読んでもらったことがありますか？」の設問には、男子の80%、女子の85%が、「よく」または「ときどき」本を読んでもらっていたと答えています。どの校種の児童生徒についても女子の数値が多少高い傾向にありますが、どの学年でもほとんど変わらないことが分かりました。

大人の働きかけが読書量に影響！

グラフ1の「家の人と読んだ本の話をするか」という問いに関しては、「よく」または「ときどき」を合わせても小学生で5割、中学生で4割、高校生では3割と、学年が進むにつれてほぼ1割ずつ減少しています。その理由として考えられることは、「大人も子どもも読書以外に費やす時間が増え、読書の時間が確保できない」のではないのでしょうか。

また、この傾向は、学校においても同様で、「教員や学校司書があまり本をすすめていない」という状況がグラフ2から確認できます。児童生徒に本を進めるためには、相手の興味・関心などへの理解や各教科等でどんな内容を学習しているのか、今、子どもたちの周りでどんなことが話題になっているかなどのタイムリーな情報収集が大切となってきます。

一方、クロス集計結果をみると、小中高生ともに「家の人と話をする」層は「話をしない」層に比べて読書量が多いことが分かりました。5月の一か月間で5冊以上、本を読んだ割合は、小学生では「話をする」層の75%に対して、「話をしない」層は55%と20ポイントもの差がありました。中学生は15ポイント差。高校生は5ポイント差です。また、5月に本を一冊も読まなかった割合（不読率）は、小学生では、「話をしない」層の10%に対し、「話をしない」層は3%でした。中学生は、17%と6%。高校生では、グラフ3で分かるように62%と41%と差が大きくなっています。

「学校で、先生や司書に本をすすめられることがある」の設問でも、読書量と正の相関関係が認められています。

本を読みたい！と思える環境づくりを

新居浜市では、小学校においては学校司書がブックトークをしたりお薦めの本や新刊を紹介したりしていますが、これまでに以上に、子どもたちに自発的に本を手にとってもらうためには、「本を読みたい」と思えるような環境を整えることがまだまだ必要だと感じます。大人が本を読む姿や、本の話などを通して、間接的に読書の楽しさが伝わることに意味があることが今回の調査から見えてきたように思います。

子どものロコミも鍵！

本の話をするのに家に大きな本棚はいらない。読んでおもしろかった本が家の目につくところに置いてあるだけでもよい。最近は小説やドラマも豊富だ。会話の糸口は意外と広い。思春期になると身近な大人との会話が減るのは当然だが、そんな中で、逆に読書が関係を深めるきっかけにもなる。

調査では触れられていないが、子ども同士の「ロコミ」も読書の広がりには有効だ。子ども同士が本を紹介し合ったり、付箋を付けて良かったところを共有したりと、自分たちが楽しんで主体的に読書をめぐる活動に関わることができるといい仕掛け作りも大切だ。

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。新学習指導要領においても、『言語能力の育成を図るために、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要しつつ各教科等の特質に応じて言語活動を充実することや、学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童生徒の自主的・自発的な読書活動を充実すること』と書かれています。子どもが生涯にわたって読書に親しみ読書を楽しむ習慣を形成していく上で、学校は大きな役割を担っているといえます。

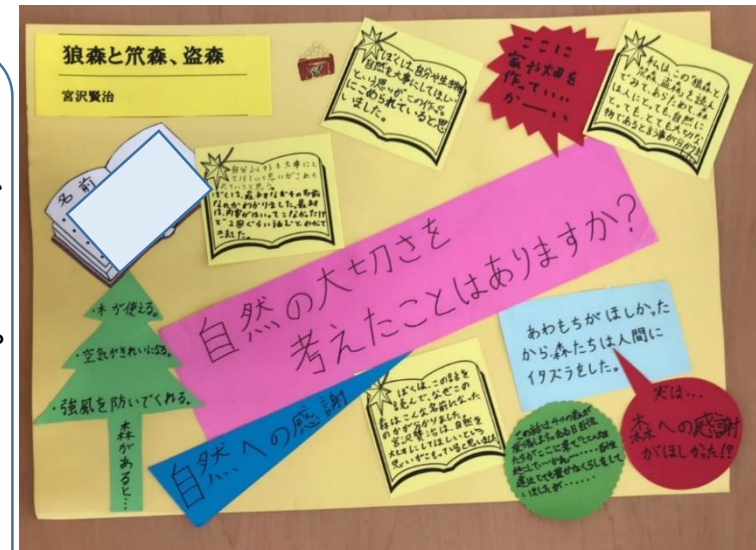
「第四次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」には、下に示すようなより具体的な取り組みの実例が出ています。各小学校では、学校司書の専門性を生かした授業実践が担任とのチーム・ティーチングで行われています。今回は、子どもたちの学習成果物を紹介します。

子どもの読書への関心を高める取組の実例

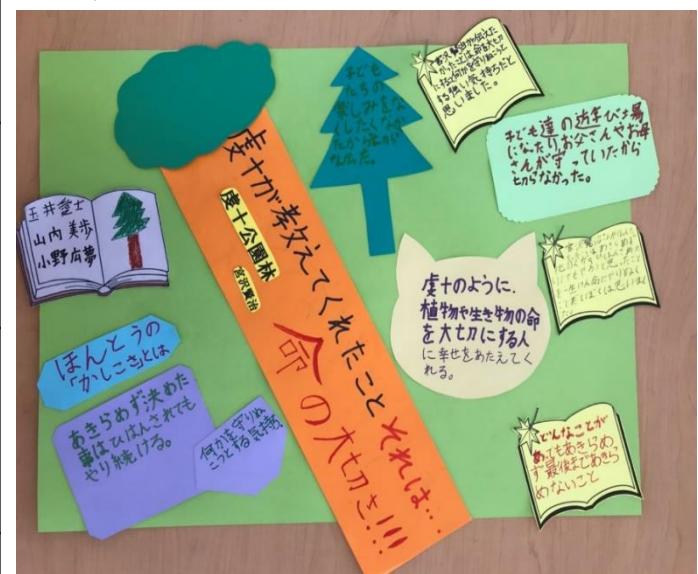
読書会	数人で集まり、本の感想を話し合う活動である。その場で同じ本を読む、事前に読んでくる、一冊の本を順番に読む等、様々な方法がある。 この取組により、本の新たな魅力に気づき、より深い読書につなげることができる。
ペア読書	二人で読書を行うものであり、家族や他の学年、クラス等、様々な単位で一冊の本を読み、感想や意見を交わす活動である。この取組により、読む力に差がある場合も相手を意識し、本を共有することにつなげることができる。
お話 (ストーリーテリング)	語り手が、昔話や創作された物語を全て覚えて自分の言葉で語り聞かせ、聞き手がそれを聞いて想像を膨らませる活動である。直接物語を聞くことで、語り手と聞き手が一体になって楽しむことができる。
ブックトーク	相手に本の興味が湧くような工夫を凝らしながら、あるテーマに沿って関連付けて、複数の本を紹介すること。テーマから様々なジャンルの本に触れることができる。
アニメーション	読書へのアニメーションとは、子どもたちの参加により行われる読書指導のことであり、読書の楽しさを伝え、自主的に読む力を引き出すために行われる。ゲームや著者訪問等、様々な形がある。
書評合戦 (ビブリオバトル)	発表者が読んでおもしろいと思った本を一人5分程度で紹介し、その発表に関する意見交換を2～3分程度行う。全ての発表が終了した後に、どの本が一番読みたくなったかを参加者の多数決で選ぶ活動である。ゲーム感覚で楽しみながら本に感心をもつことができる。
図書委員、子ども司書、読書コンシェルジュ等の活動	子どもが図書館や読書活動について学び、お薦め本を選定して紹介したり、同世代の子どもを対象とした読書を広める企画を実施したりする活動である。自ら読書に関する理解を深めるとともに、読書活動の推進役となり、同世代の子どもの読書のきっかけを作り出すものである。
子ども同士の意見交換を通じて、一冊の本を「〇〇賞」として選ぶ取組	参加者が複数の同じ本を読み、評価の基準も含めて議論を行った上で、一冊のお薦め本を決める活動である。 複数の本を読み込み、共通の本について自身の考えで話し合うことで、自分と異なる視点を知り、自身の幅を広げることにつながるものである。

「第四次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」より

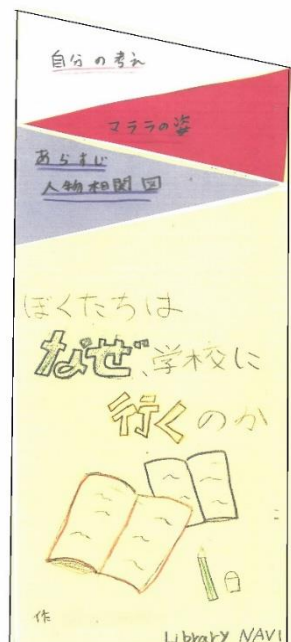
やまなしの学習時に、宮沢賢治の作品を並行読書し、同じ本を読んだ友達と感想や意見を交流し、発表ボードにまとめました。この班は、『度十公園林』を読んで話し合い、作者の思いや作品の魅力をみんなに伝えてくれています。



【6年 宮沢賢治の作品を読んで】



この発表ボードは、宮沢賢治の作品『狼森と兎森、盗森』を読んで、自分たちの考えをまとめたものです。SDGsを意識させることで、友達との意見交換がより深いものとなりました。

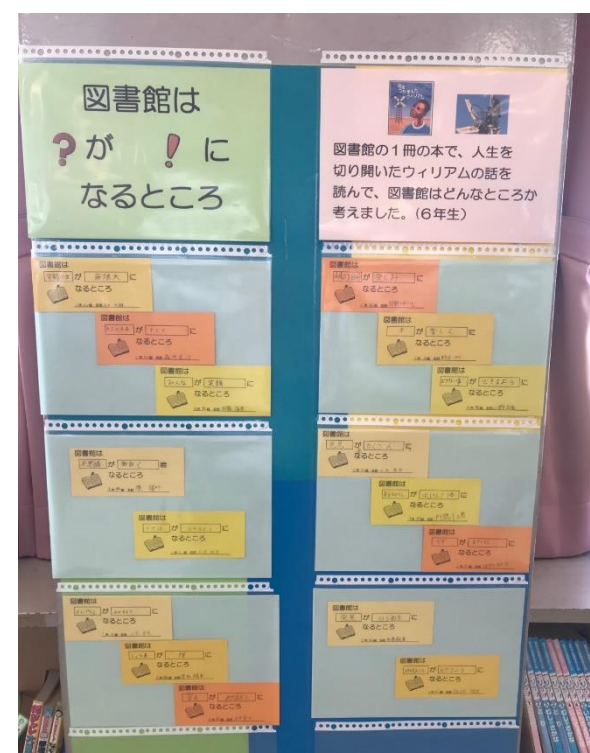


『ぼくたちはなぜ、学校へ行くのか。マララ・ユスフザイさんの国連演説から考える』(石井光太作)を読んで作成したライブラリー・ナビです。マララさんの姿から自分を振り返りました。

伝記に描かれている人物の業績や生き方をまとめ、見ている人に分かりやすく紹介する立体的なリーフレットです。これを『本のショーウィンドウ』と呼びます

読書週間は終わりましたが、まだまだ夜長は続きます。読書を通じて、心に残る一冊に出会えるといいですね。読書週間の標語の右隅にあるフクロウが気になり、なぜフクロウをロゴに使っているのかを、ちょっと調べてみました。

その昔、ギリシャ神話の世界で「ふくろう」は、学問・技芸・知恵を司る美貌の女神アテナの使者であり、代表的なポリスで文化の中心地アテナイ（アテネ）の聖鳥でもありました。古代ギリシャの人たちは、賢そうな丸い目で、すまし顔の「ふくろう」を知恵の象徴として大切にしていたのだそうです。森の奥深く、静かに瞑想にふける「ふくろう」の姿こそ、読書週間のシンボルマークとしてもっともふさわしいものと考え長い間使用しているそうです。



2019 第73回 読書週間
10月27日～11月9日

公益社団法人読書推進運動協議会のホームページに上のようなロゴ（葉に利用できるもの）などのデータがダウンロードできます！
公益社団法人読書推進運動協議会
<http://www.dokusyo.or.jp/>